

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.22)

「皆良い人だが、私のマントは現れない」

・・・人を疑うことについて・・・

日本人が海外旅行に出た場合の 패턴のひとつとして、メガネをかけ首からカメラをぶら下げているというのを読んだことがある。私はカメラを持ち歩くときは、デジカメが多いので、ポケットに入れている違いはあるが、この評論からすれば、私などはまさに、典型的な日本人である。

このためかどうかは不明だが、長期滞在していると様々なことに会う。あるとき、デジカメに入れてある4メガメモリーの、撮影済みの何百枚かの写真がすべて失われそうな？出来事に遭遇した。

カメラやパソコンの故障ではない。昼休み(当地では2時半前後)、ワイシャツ姿で街中を散歩しながら、ごく普通の風景を持参のデジカメで一枚撮影したとき、中年の警察官が近寄ってきて、

「カメラの画面を全部消去せよ」と、居丈高にいきなり怒鳴ってきた。

まさにカメラを取り出して1枚を写したすぐ後で、実にタイミングが良かった。

あっけにとられながら、冷静に「理由は？」と問うたが、彼は理由も言わずに、「とに角全部消せ」と、さらに強い語調で繰り返すだけであった。

トラブルに巻き込まれるのも嫌なので、彼の命令に従ったように、一枚だけ彼の目の前で、大げさなパフォーマンスを演じながら消去したところ、彼は中身を確かめもせず、「ぶつ、ブツ、……」と呟きながら解放してくれた。

憤懣やるかたなく、実際は安堵の気持ちで、胸のうちでは舌を出しながら、無言で彼から離れた。

別の機会では、交差点をメキシコ人2,3人の後をついて渡ったとき、反対側の交差点にいた交通整理の警察官が近づいてきて、私にだけ、「赤信号で渡った」と文句をつけてきたことがあった。

大学教官相手に、「ISOに基づく品質管理体制構築」のための組織論を講義した折、「責任と権限」という項目があり、よい題材だと思ったので、早速即興でこれらのエピソードを組み込んで話したが、「私の周囲には、携帯電話で同じように撮影していた若い女性もいたが、彼は彼女には目もくれなかった」というくだりでは、大いに笑いを誘った。講義を活性化させるには、時には冗談も必要だ。

講義参加者が皆一様に、「はは！ターゲットになったな」と、暗に顔に書いてあるごとく、ニヤニヤし



前回の便りと関係あるが、本文中のエピソードの中で紹介した、街の光景を撮影した写真の一枚・・・市内のいたるところで見られた風景である

ながら聞いていたことに対応する、前に聞いていたある噂が頭を過ぎった。いやそんなことは無いはずだ、違うのだと考えることにしよう。

前述したそれぞれの件は、何らかの理由があり、彼らの信念に基づいて、彼らなりに職務を忠実に実行したのかも知れない。そのように考えれば、別の目的で近寄ってきたのだらうと、彼らの行為を勝手に邪推した、ボラッチョ・ボニート氏の方こそ反省せねばならないかもしれない。

今回のタイトルに採用したのは、「**Toda es buena gente, mas mi capa no aparece**」(トーダ エス ブエナ ヘンテ マス ミ カパ ノ アパレセ と発音し、直訳はタイトルに記したとおり)、実に愉快的な諺からである。

この訳について、性善説で人を信じきったように解釈するか、逆に人は油断するなど性悪説で解釈するかは、その人の心の持ちようと、その人の経験によることなるだろう。

現在の滞在ばかりではなく、別の国での滞在のときにも、一時停止しなかった、駐車違反だ、信号無視だなどと、実際はそうでないのに、難癖をつけられたことが何回かある。私は本来的に前者の立場に立つことが多いのだが、こんな理不尽なことを言われると、その考えもぐらつくかもしれない。

これからも同様なことがおきるのだろうか。自分から求めて近づくつもりはさらさら無いが、何をされるか分からない不安感と、「どのように反論しようか」という思いのワクワク感の入り混じった、何ともいえぬ複雑で奇妙な感覚がわきあがる。(これって、へそ曲がりの素質大なり?)

永年付き添っているワイフは、「貴方のような顔つきの人や、口下手の人は、会社勤めのときも、リタイアしてからも、良きにつけ悪きにつけ、人から矛先を向けられやすいタイプなのね!」と、褒めたのかけなしたのかは分からないが、諦め顔でいう。

大体はあっているのだろうが、人生を振り返れば、「良きにつけ」というくだりだけは余り当たって少なく、「悪きにつけ」の方が多いい気がする。いまさら顔を整形するわけにも行かず、饒舌に変わることもないので、これからも自然体で行くしかない。

それにしても、これらの諸出来事に遭遇する機会があったり、自他共に認める口下手の男が、学生相手に鍛えている一騎当千の大学教官を相手に、スペイン語で時には冗談を言いつつ講義するなど、運命のいたずらとはいえ、不思議な廻り合わせになっているものだ。

(2009年10月4日、今月も2つの大学での講義がひかえており、準備に追われています)